

モニタリング結果報告書（平成24年度上半期）

施設	設	秦野精華園
指定管理者	者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間		H18.4.1 ~ H28.3.31
施設所管課		障害サービス課 ( )

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

研修の実施や職員派遣により、支援の質の向上に積極的に努め、地域の中心的な役割を担う、県立施設としての役割を果たしている。  
 利用率は前年度比でほぼ変わらない。地域生活移行を目的とした有期限施設であり、利用者の入退所が頻繁にあることを考えると、目標数には届かないまでも、実績数の維持には相当の経営努力をしていると考えられ、評価できる。  
 収支については、制度変更による増が要因としてあげられているが、経費削減努力についても継続的に実施し、良好な管理運営を継続してもらいたい。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
4月	5月10日	5月10日	○	×	×	無	
5月	6月8日	6月8日	○	×	×	無	
6月	7月9日	7月9日	○	×	×	無	
7月	8月9日	8月9日	○	×	×	無	
8月	9月7日	9月7日	○	×	×	無	
9月	10月9日	10月9日	○	×	×	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	提案内容の要旨を記載 知的障害者支援施設（入所）及びチャレンジセンター（通所）の多機能型の日中活動における利用者支援へのサービスの向上のため、有期限利用の前提の中で、地域生活移行を目標に個々の利用者の自己実現とステップアップを重視した支援を実施します。	実績又は今後の見込みを記載 障害者自立支援法で設定されている各事業の基本利用期間において、地域生活移行等ステップアップ支援を推進する社会診断会議や日中活動における支援方法を確認する個別支援計画等の実践を通し、本人やご家族の意向も把握しながら次の資源への移行を推進。 ・社会診断会議：23回実施、他法人入所施設へ1名、他法人通所施設へ1名移行。

	提案内容	実施状況
2	<p>提案内容の要旨を記載            ネグレクト等被虐待経験知的障害者や矯正施設後の触法知的障害者を受け入れ、生活・職業スキルのステップアップ支援を実施します。</p>	<p>実績又は今後の見込みを記載            「ネグレクト等地域移行支援プロジェクト」について            ・23年度から対象利用者5名の継続支援を実施。            ・SST（社会生活技能訓練）支援スキルアップに向け、7月に職員2名がSST初級研修を受講。9月にSST普及協会認定講師による研修会を開催（16名参加）。            ・SST支援対象者延べ17名に対し、SSTを9回実施。            ・職員向けに内科医によるネグレクト等虐待に関する研修会を2回開催（41名参加）。            ・臨床心理士による虐待経験者への心理面接（対象者15名に延べ140回）を実施。触法経験者への心理面接（対象者3名に延べ35回）を実施。            ・10月全国知的障害関係職員研究大会に「触法非虐待等社会擁護を必要とする障害者の入所支援を活用した地域移行プログラムの作成と検証について」を発表予定。            ・11月「福祉のトップセミナーIN雲仙2012」に職員1名が参加予定。</p>
3	<p>提案内容の要旨を記載            職場はもとより、実習先の開拓や就労支援、就職後の定期的な訪問支援等により、知的障害者の就労等の基盤整備を推進します。</p>	<p>実績又は今後の見込みを記載            当園のジョブコーチ、職場開拓員、生活ホーム担当職員等が職場開拓や実習・就労支援、就職後の定期的な訪問など適時に必要な支援を実施。            ・ジョブコーチ支援61回、就労者継続支援86回、企業実習17名、ハローワーク等求職支援57回、職場開拓訪問16回、企業見学支援11回、面接試験支援13回を実施。            ・9月末までに在宅利用者4人、生活ホーム利用者2名が就職し、10月から2名が就職予定。</p>
4	<p>提案内容の要旨を記載            様々な要因から就学期に学校における教育を受けることが出来なかった利用者及び就学期に該当する利用者に対して教育的なアプローチの支援を推進します。</p>	<p>実績又は今後の見込みを記載            就学期支援プロジェクトについて            ・アドバイザーに元小田原養護学校校長を迎え、今年度毎月1回の会議を開催。            ・教育的な関わりについての理解を深めるための教育機関見学を実施。（伊勢原養護学校2回、平塚養護学校1回、神奈川県能力開発センター1回、平塚ろう学校1回。）            ・モンテッソーリ教育教材による利用者対象の余暇活動を1回実施。            ・10月に大学生による利用者を対象とした模擬授業を実施予定。            ・ボランティアによる漢字、アルファベットに特化した教室を開催予定。</p>
5	<p>提案内容の要旨を記載            児童入所施設に加齢児の受け入れや、児童養護施設、児童相談所一時保護所、養護学校等からの知的障害児の積極的受け入れを推進します。</p>	<p>実績又は今後の見込みを記載            ・児童入所施設に加齢児の受け入れとして、弘済学園より2名の加齢児の受け入れを実施。            ・養護学校への事業説明会の実施、小田原養護学校の進路説明会へ参加。            ・養護学校生の通所体験12名延べ88日実施。            ・弘済学園、ひばりが丘学園からの進路相談8名。            ・地域の児童相談所への訪問、意見交換。</p>

#### 4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		—	—	—	—	—	—
予算額	前年度	202,733	463,898	101,998	768,629	768,629	0
	上半期	101,366	231,949	50,999	384,314	384,314	0
	下半期	101,367	231,949	50,999	384,315	384,315	0
	今年度	202,733	456,575	74,439	733,747	733,747	0
	上半期	100,938	228,287	37,219	366,444	366,444	0
	下半期	101,795	228,288	37,220	367,303	367,303	0
上半期実績額	4月	15,289	39,400	5,350	60,039	46,355	13,684
	5月	15,289	42,721	6,445	64,455	55,495	8,960
	6月	24,493	39,792	8,675	72,960	84,906	▲ 11,946
	7月	15,289	40,750	7,496	63,535	53,382	10,153
	8月	15,289	40,675	6,939	62,903	51,064	11,839
	9月	15,289	40,117	8,257	63,663	53,344	10,319
	今年度 上半期合計	100,938	243,455	43,162	387,555	344,546	43,009
	前年度 上半期合計	100,938	230,316	64,570	395,824	370,421	25,403
	対前年度上半期比				▲ 2.1%	▲ 7.0%	

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

③

#### 収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	
② 今年度上半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	○	制度改正により、利用料収入に処遇改善費が算入されたこと、自立支援費級地加算の変更があったこと及び重度加算対象者が増加したことによる増。
③ 収入額又は支出額が前年度上半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等  
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：一円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	0	
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
4月	146 人	145 人	0.7 %
5月	145 人	146 人	▲ 0.7 %
6月	143 人	143 人	0.0 %
7月	144 人	143 人	0.7 %
8月	146 人	146 人	0.0 %
9月	142 人	146 人	▲ 2.7 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	960 人	866 人	869 人	▲ 9.8 %	▲ 0.4 %
今年度下半期計	— 人	— 人	— 人	— %	— %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度上半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度上半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当園の特色である6年程度の有期限利用・地域生活への移行・就労支援の強化を推進していく中では、毎月の利用者数は常に流動的となるが、昨年度同様、目標利用者数を毎月160名の定員数として設定した。</li> <li>・今年度は、昨年度に引き続き、就労支援強化の成果があり、企業等への就労移行が進んでいる。利用者の更なる利用を進めることで目標の利用者数の達成に繋げたい。また児童相談所の一時保護所等からの養護性の高い方の受入に向けた新たなプログラム創設に向け、今年度より就学期支援プロジェクトを立ち上げ準備を進めており、新たなプログラムの創設などにより目標利用数を達成したい。</li> </ul>
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	1 ( 1 )	3 ( 2 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	0 ( 0 )	4 ( 3 )

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

**8 事故や不祥事等の発生状況**

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

**9 随時モニタリングの実施状況**

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
( )		
( )		
( )		

**10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等**

・有期限施設として中軽度の知的障害者の就労移行・地域移行を推進していますが、就労支援に関しては昨年以上の実績(9月30日現在就労6名、実習16名)をあげることができました。

一方通所のチャレンジセンターにおいては、就労支援が進む反面、定員が埋まらない状況がありますが、関係機関(市町村・相談事業等)との情報交換を積極的に行うとともに、障害児施設からの加齢児の受け入れや養護学校への説明会の開催、通所体験等を通しニーズの掘り起こしに努めます。

・就労支援事業においては、各事業の工賃アップに努めていますが、最低賃金は上がった反面、経済情勢は依然として厳しい状況にあり、クリーニング作業収入等の伸びは厳しい状況にあります。しかしながら、入所の就労移行支援においては、今年度から秦野市市営プールの売店販売(7月～8月)を請け負い、作業収入の増による工賃のアップを図りました。今後も積極的に作業種目の拡大を視野に取り組んでいきます。

・特色ある支援としては、ネグレクト、触法等経験者等の支援のための職員研修の充実を図るとともに、SST(社会生活技能訓練)のプログラムを導入しました。また、ネグレクト等地域移行プロジェクトとして、10月の全国知的障害福祉関係職員研究大会において、当該事例について発表の予定です。

今年度からの取り組みとして、就学期支援プロジェクトを設置して就学支援内容を検討中ですが、モンテッソーリ教育プログラムの導入等新しい特色ある支援として取り組んでいきます。

・今後も当園独自の経営会議を四半期ごとに開催し、計画的予算執行や収支バランスを念頭に適切な施設の管理・運営に努めます。